

ケリ(チドリ科) 全長36cm

神岡地域は昔からケリの繁殖地として知られていましたが、近年ぱったりと飛来数が少なくなり心配していました。

5月28日、大浦沼近くの田んぼの中で抱卵中のケリが見つかりました。巣は枯草を敷き詰めただけの簡単なもので、上空からは丸見えの状態です。水田、畑、草原などの地上に浅く窪めた巣をつくり、繁殖は局地的で毎年同じような場所を選びます。



巣の周囲は水浸しの状態。

抱卵中の親の背中周囲の土の色とそっくりの保護色で、動かなければ見分けが付きません。卵も周囲の地面と区別がつかない絶妙な模様で、簡単には発見できません。

そのため、トラクターなどの農作業中に巣を壊されてしまうこともしばしばでした。田んぼには間もなく水が入り、代掻き作業が始まります。そうになると、ケリの巣は水没するか機械により壊されてしまいます。



巣を一段高くしました。5個の卵が産みつけられています。



田植え後も卵を温めます。

田んぼの持ち主に事情を説明したところ、巣を守ることで協力いただくことになりました。ケリの巣が水没しないよう、すぐ横に土を盛り、スコップでそっくり移し替えを完了。これから始まる代掻きと田植え作業は、この巣をよけながら行わなければなりません。一連の作業にはさぞかし支障があったことでしょう。

それを知ってか知らずか、田植えが終わった田んぼの中に一段高く盛られた巣の上で、ケリが何事もなかったかのように座り込んでいました。



均一に温まるように時々卵を回転します。



親が立ち上がると雛がいました。

5個の卵は親鳥に優しく温められながら、孵化を待ちます。

6月24日、畦道の上にいた親鳥の足元で、1羽の雛を見つけました。歩みはまだ弱々しけれど、脚が太くとても丈夫そうです。ケリの雛は孵化した数時間後には歩き出し、親から餌をもらうこと無く自分で探し始めるのです。



まだヨチヨチ歩きです。



もう自分で餌を探しています。

なんと自立心の強い子どもでしょう。

まもなく他の4羽も孵化します。親鳥は外敵が来ると、我が子を守るため「キッキッキ、キ〜ッ」と甲高い鳴き声を響かせ攻撃していることでしょう。